

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『

豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅

“ビー ジー サス・ジャーニー”

Blue-Green-Sustainable Journey

持続可能な観光プラットフォーム構築

』

活動団体の活動地域：岩手県 釜石市

活動団体名：株式会社かまいしDMC

中間支援主体名：一般社団法人ゴジヨる



活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

～ここを訪れたい・つながりたい・まなびたい・仲間になりたい・持続可能な地域～

それぞれの活動チームがゆるやかな連携をとりながら、つながりあい、根浜全体の地域の魅力を作りあげ、外から訪れた人々がそれらの魅力を体験できる環境がととのい、心の仲間が増えていくこと。またその結果、つながりの中で経済の循環が生まれること。持続可能性の体験をクリエイト！

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

■かまいしDMC(根浜シーサイド)=環境x観光プラットフォームの総合プロデューサー

■地域の活動団体・事業者・住民

- ・ゆるやかな&好つながり保持
- ・全体で鵜住居&根浜の魅力につなげ、活性化していく想いを共有する
- ・地域の経済循環に向けて協働
- ・ボランティアガイドなど住民参加の促進

ローカルSDGs事業として取り組む内容

環境 x 観光 x ○ ○ の事業タネづくり

- ・各団体の活動、提供価値の見える化
- ・環境・観光コンテンツの価値の認識と共有
- ・地域内外つながり創生(誘客施策・情報発信)

【生物多様性】自然体験イベントや講習会

【教育】環境教育プログラム考案

【福祉】障がい者旅行のためのユニバーサルビーチとキャンプ場の整備検討

などに取り組む。

地域の現状

【課題】

- ・良い活動だが担い手が増やせていない、活動が活発にならない、資金が作れない...という悪循環
- ・「持続可能な観光のフロントランナー釜石」「ストーリー性のある根浜」を活かしきれてない
- ・交流人口に対して、地域の良さが活かされてない、見える化できてない
- ・つながれる仕組みやツールが整ってない、第二の故郷になるには
- ・「隠れた魅力」状態である地域の魅力をもっとアピールする必要がある

3か年状態目標

2026年度末の状態目標

【環境x観光プラットフォーム構築の実装】

- ・ 仲間と協力しながら、体験ツアーなどのプログラム実施 (目標: 企業・教育機関 5つを新規開拓)
- ・ 訪問者数を増やし(2023年比で150%)、地域経済が循環する仕組みをつくる
- ・ 各団体の持続可能性、経済性を高めるサポートを行っている
- ・ 観光客および地域住民のウェルビーイングのための環境整備に取り組む

2025年度末の状態目標

【地域ビジョン実現のための体制づくり】

- ・ 仲間とつながる情報共有やコミュニケーションの仕組み作り
- ・ 釜石市の地域観光ビジョンと計画に沿った事業を試験的に行う
- ・ 環境x観光プラットフォーム構築における、各々の役割を設定している
- ・ 事業立ち上げのための環境整備、ボランティアガイド育成準備に取り組む

2024年度末の状態目標

【基盤の整備】

- ・ 既に繋がりのある活動団体やキーパーソンを見直して、仲間探しを行っている
- ・ 地域の活動団体と、課題の共通認識を持つ、地域のビジョンをブラッシュアップしている
- ・ 釜石市の地域観光ビジョンと計画に沿った事業を考案する
- ・ 仲間と協力しながら、環境教育プログラムや体験ツアーを考案

■ 見立て

■ 地域の特徴

- ・約20の団体が草の根活動を活発に展開しており、さらなる持続可能性の向上に向けて、活動の発展や連携の強化が期待される
- ・世界的な自然回帰やエネルギーシフトの流れに同調しているが、散発的な活動が多く地域の魅力が対外に十分に発信されていない

■ 活動団体の得意なこと

- ・観光や環境に関する多様なコンテンツを提供できる
- ・ステークホルダーと協力関係を構築する力

■ 活動団体の今後の強化ポイント

- ・収益事業の仕組みづくりや運営の強化
- ・専門知識や成功事例に関する情報のさらなる充実

■ 打ち手

■ ステークホルダー連携強化の体制づくり

- ・役割や関わり方の整理、調整
- ・交流会、意見交換会でのファシリテーション

■ 地域伴走型コーディネート

- ・脱炭素などの政策を反映した仕組み作り支援
- ・人材や業務のシェアなどの提案

■ 地域伴走型シンクタンク

- ・先進事例などのリサーチ
- ・インバンド等の潮流を踏まえた事業戦略考案
- ・インパクト評価設計

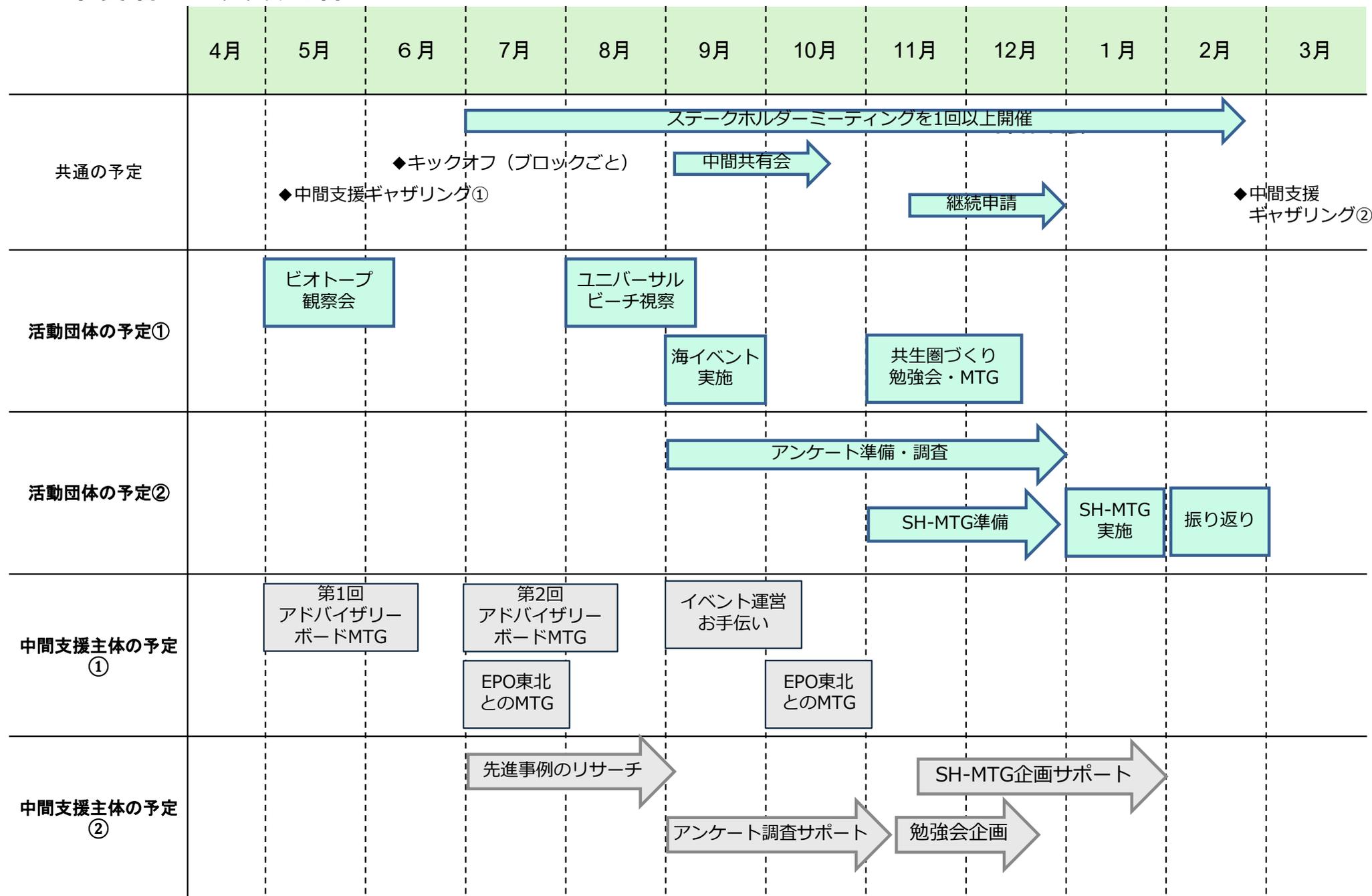
■ 中間支援機能の強化・振り返り

- ・地域伴走型の効果の高い支援体制づくり
- ・縦、横、斜めのバランスを調整するコーディネート
(縦 = 政策やビジネス潮流、横 = 地域の住民や事業者、斜め : 先進地域など)
- ・地域伴走型シンクタンクの核となるアドバイザリーボードの運営

相談事項：中間支援団体の目標値と評価方法をどう設定したらよいか。
また、活動団体の目標値と評価をどのようにすり合わせたらよいか。

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容



活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

(地域のビジョンを描く) 地域の構造を可視化・言語化する

中間支援主体の支援

● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

プラットフォーム構造の考案するため、現状の登場人物、強みと課題の棚卸しが必要。

● 具体的な支援内容（打ち手）

地域で活動する多様な団体と各々で行うプログラムやイベントを書き出し、関係性や個々の課題を確認した。

● 打ち手による活動団体の変化

ステークホルダーとの連携をより意識し、協力体制の可能性を模索し、具体的なアクションを検討する動きが加速した。

● 中間支援主体としての気づき・成長

既に多くの団体とのネットワークがあり、特に個人間のつながりが強いことがわかった。これを活かしながら、より組織的な連携も視野に入れることが重要と考えられる。

活動団体の取組

● 活動名・時期

地域の構造(活動団体とプログラム、関係性)の書き出しと整理・9月

● なぜそれを実施したのか（実施目的）

キーパーソンを再確認し、体制を考えるため。課題の中から共通項を見つけて、解決策を考えることにつなげるため。

● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

見える化と整理によって、共生圏づくりのための協力体制のイメージ、SH-MTGの企画につながった。

中間支援側もステークホルダーとその現状と課題について理解を深めることができた。

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

(仲間を探す) (活動団体が)関係者を訪問し、実際に話を聞いてみる

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**

ありたい未来を実現するためのプラットフォームや事業の具体化に向け、さらなる議論や整理が求められる。

- **具体的な支援内容 (打ち手)**

環境と観光に関するアンケートを作成し、活動者や住民からの回答(25件)を集計。

- **打ち手による活動団体の変化**

回答に協力的な人が多く、次の取り組みに向けて弾みがついた。今後の方針をより具体的に検討する必要性が再認識され、次のステップに向けた議論が活発になった。

- **中間支援主体としての気づき・成長**

アンケート設計の工夫が今後の課題であり、次回以降はより共通認識や傾向を明確に把握できるよう改善の余地があると分かった。

活動団体の取組

- **活動名・時期**

釜石の環境と観光に関するアンケート調査を実施・9~11月

- **なぜそれを実施したのか (実施目的)**

プラットフォームや事業のタネの基となりうる釜石の自然環境への想いや観光振興のアイデアを集めるため。

- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか (活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗)**

自然環境の保護や観光振興に関わりたいか?の質問に、82%が肯定的な回答だったので、今後を活かしたい。一方、関心や期待が様々なので、今後は共通目標を創り、より多くの賛同を得られるような工夫が求められる。

取り組み紹介：アンケート調査

■釜石の環境と観光に関するアンケート調査 (2024年9~11月に実施)

アンケート用紙(左)と集計結果の一部(右)

【釜石の環境と観光に関するアンケート】

本アンケートは、DMC代表理事・サイドマネージャーと環境部長の協力を得て実施する。調査結果は、DMCの活動に活用させていただきます。ご回答をよろしくお願いいたします。尚、お名前やご所属などの個人情報は外部に開示することはありません。(調査期間：5分)

記入日：2024年12月16日

回答者のお名前：[] 性別：[]

※おなご自身についてお答えください

Q1. ご年齢：10代以下・20代・30代・40代・50代・60代以上

Q2. 居住エリア：釜石市内() 釜石市外(市町村名：[])

Q3. 釜石在住の年数：6年未満() 7~19年() 10~19年() 6~10年() 50年未満()

Q4. 釜石で暮らすし続ける理由(複数回答)として当てはまることを教えてください。(当てはまるもの全てに○を圈してください。)

<input type="checkbox"/> 生まれ育った町だから	<input type="checkbox"/> 高級や自然環境がよいから
<input type="checkbox"/> 学んでいる仕事があるから	<input type="checkbox"/> 子育てや教育のため
<input type="checkbox"/> 自然環境の良さや土産があるから	<input type="checkbox"/> 雇用やサービスを受けられるため
<input type="checkbox"/> 家族や知人がいるから	<input type="checkbox"/> 楽しめるスポットが多いから
<input type="checkbox"/> 地場の産物やサービスだから	<input type="checkbox"/> その他()

※釜石の自然についてお答えください

Q5. 釜石の自然で、魅力だと思うものを教えてください。(上位3つまで○)

<input type="checkbox"/> リゾート地の趣があること	<input type="checkbox"/> 山や海が美しいこと
<input type="checkbox"/> 木がきれいなこと	<input type="checkbox"/> 生き物の多様性があること
<input type="checkbox"/> 水産物が豊富で新鮮なこと	<input type="checkbox"/> 農村風景が美しいこと
<input type="checkbox"/> 川がきれいなこと	<input type="checkbox"/> その他()

(※複数) ○をつけたい順の思いつく順序を教えてください。(例→山、川など)

Q7. 多くの人に魅力を知ってもらうためには何が必要だと思いますか？(上位3つまで○)

<input type="checkbox"/> 海や山でマリンスポーツができる環境整備
<input type="checkbox"/> 漁業や観光クルーズなどを発展させる
<input type="checkbox"/> 山や森林でハイキングなどの運動ができる環境整備
<input checked="" type="checkbox"/> 山や川川でのキャンプや遊覧ができる環境整備
<input type="checkbox"/> みのすけ沼など生物多様性のあるエリアの環境整備
<input type="checkbox"/> 自然災害に備える防災設備を整えることができる
<input type="checkbox"/> 子どもや親子向けに、自然と親れ合う環境整備の取り組み
<input type="checkbox"/> 自然や資源を活用した新たな観光地の整備
<input type="checkbox"/> その他()

Q8. 自然体験や観光のためにお客様を誘引する人が増えたとしたら、どのような効果を得られますか？(上位3つまで○) ※200ページに続く。

<input type="checkbox"/> 環境・観光の安全が確保され信頼がよくなる
<input type="checkbox"/> 新たな観光関連産業が創出されて、雇用が増える
<input type="checkbox"/> 観光地名により、交通が発達、地域の活性化が向上する
<input type="checkbox"/> 地場の産物やサービスなどが活性化される
<input checked="" type="checkbox"/> 観光客の増加によって他の産業が振興される
<input type="checkbox"/> 税金等の収入が増え、まちの利便性が上がる

Q9. 釜石の魅力アップにつながる自然環境の保護や観光振興の活動に関わりたいと思いますか？

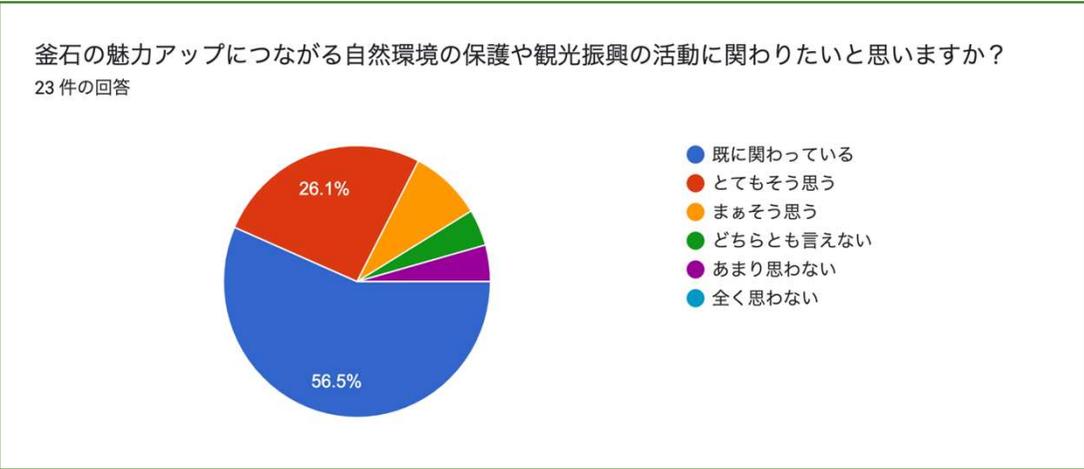
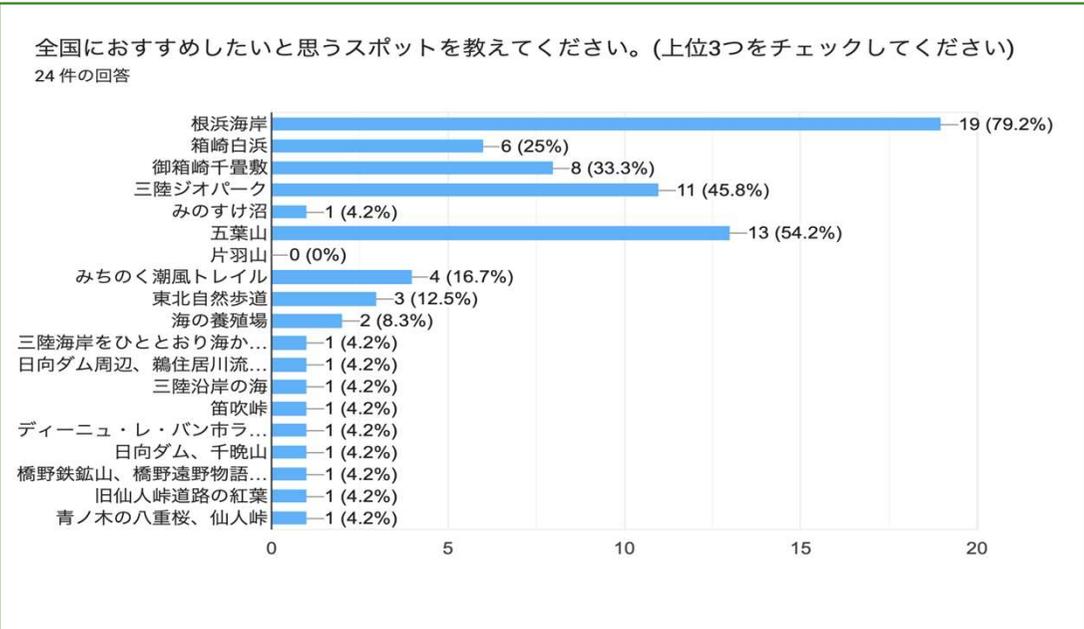
<input type="checkbox"/> 関わりたくない
<input type="checkbox"/> 関わりたくないが、条件次第で関わりたい
<input type="checkbox"/> 関わりたい
<input type="checkbox"/> 関わりたいが、条件次第で関わりたくない
<input type="checkbox"/> 関わりたくないが、条件次第で関わりたくない
<input type="checkbox"/> 関わりたくないが、条件次第で関わりたくない
<input type="checkbox"/> その他()

Q10. 前の質問で「関わりたくない」ともそう思う・まあそう思う・どちらとも思わない・全く関わりたくない

Q11. 釜石の魅力をアップさせるために、自然環境の保護や観光振興の活動に関わりたいと思いますか？

Q12. 釜石の環境や観光に関連する思いや取り組みなどを自由に教えてください。

ご協力ありがとうございました！



活動・支援のプロセスの振り返り

- (特に前2スライドの支援を実施するにあたり、) 今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？ (中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入)

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目(番号)	支援をしたタイミング等
チェンジ・エージェント機能	変革促進機能	(1)⑦	アイデアの提示、目標や課題の再設定
チェンジ・エージェント機能	問題解決提示	(2)⑤	ステークホルダーのニーズ、ウォンツの可視化
チェンジ・エージェント機能	立地拠点機能	(1)①	社会的状況の把握と事業環境分析 ②地域拠点としての情報収集、調査実施等

● 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

- ・ アンケート調査やSH-MTGを通して、活動団体(担当者の方)は多くの地元の団体や個人とつながるネットワークの結節点になっていることが分かった
- ・ 前半は中間支援から事例や案を提示しながら進めていたが、議論が深まるにつれ、具体的な質問(共生圏のここが詳しく知りたい等)が増え、積極的にアイデアや代替案が提案されるようになった

● 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

- ・ 活動団体の現状と課題を見立てて打ち手を考える、という支援の視点を得た
- ・ PDCAを回しながら効果的な支援手法を探る習慣(意見の引き出し方、巻き込み方など)
- ・ 適切なタイミングで専門家につないだり、相談したりなど、活動団体の変化を促すことを学んだ

● R6課題だと感じたこと

活動団体から、ステークホルダーやその先の住民に、環境に関する知識や行動変容を波及させるためには、知識(環境問題と政策など)、共生圏の理解(マンダラや成功事例)、そして、「自分ごと」としての意識を育むことが重要である。その実現に向け、中間支援主体としての効果的なサポートが課題だと感じた。

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- 地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるといいと考えているか。R7～中間支援主体として今後どのようにになりたいか。

- ・ 伴走型支援の深化：活動団体の変化を促す効果的な支援手法の幅を広げたい

- ・ 活動団体の主体性を引き出す支援力の強化：重要度の認識やモチベーションなど心理的な支援手法を獲得したい

- ・ ネットワークの活用と拡大：EPO東北との連携したことを活かし、他団体との横のつながりを促進したい

- ・ データ活用や見える化の支援：アンケート結果分析などから課題やありたい姿のキーワードを見える化させて、活動団体にとって説得力のある提案や助言を行いたい

- 活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）

- ・ ありたい未来を発信し、反応を得る
→ 本年のSH-MTGやアンケート調査に関わってくれた団体や個人を巻き込むために、話をする場づくりやアイコン作りが必要

- ・ 自治体の総合計画や政策との関わりをつくる
→ サステナブルツーリズムに重きがおかれているため、それを踏まえた事業構築が必要

- ・ 先進的な事業を学ぶ機会をつくる
→ 他団体とのつながりを作り活動推進のきっかけにしたい

- 地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと

- ・ 中間支援の具体的なノウハウ、効果のあった取り組みの勉強会実施
- ・ 知識(環境問題と政策など)、共生圏の理解(マンダラや個別アクションの成功事例等の到達点の教示)、そして、市民が自らの生活の中で共生圏づくりにつながり、また、実践的な行動につながる教育コンテンツの提供